

授業科目名・形態	助産診断・技術学Ⅲ 講義	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	工藤 優子 ・ 小山 文望恵	実務経験の有無	有	開講期	4 年前期

【授業の主題】

分娩期は人生のうちでも顕著な身体的・心理的・社会的・発達の变化を伴う時期であり、正常を逸すると母児の生命に直接的に大きな影響を及ぼす。この時期に助産師の行う診断とケアは、変化を正確に把握し適時に対応することが求められ、かつ現在および今後の健康状態の変化や経過を正確に予測した助産診断を行うことが極めて重要である。

本科目では、分娩期における助産診断の理論と技術を学び、助産過程の展開・実践の理解を深める。また、分娩期におけるハイリスク・異常分娩、救急処置などの基礎的知識と技術について学ぶ。

【到達目標】

1. 分娩期の助産過程と助産診断について理解する。
2. 分娩期の産婦の支援について理解を深める。
3. 分娩期におけるハイリスクおよび異常分娩、産科手術、産科救急について理解する。
4. 正常からの逸脱予測と予防のためのフィジカルアセスメントと助産ケアを学ぶ。

【授業計画・内容】

第1回	分娩期の助産過程と助産診断①	(工藤)
第2回	分娩期の助産過程と助産診断②	(工藤)
第3回	産婦の支援①	(工藤)
第4回	産婦の支援②	(工藤)
第5回	出生直後の新生児のケア①	(工藤)
第6回	出生直後の新生児のケア②	(工藤)
第7回	ハイリスク・異常分娩	(小山)
第8回	産科手術・産科的医療処置	(小山)

【授業実施方法】

基本的に講義形式で行う。

【授業準備】

事前に基礎助産学、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱでの学習内容、および教科書・資料・参考文献を復習しておくこと。各講義・演習で学習した知識・技術を活用できるように予習して臨むこと。

【主な関連する科目】

基礎助産学、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅳ

【教科書等】

助産学講座 7	助産診断・技術学Ⅱ[2]	分娩期・産褥期	医学書院
助産学講座 8	助産診断・技術学Ⅱ[3]	新生時期・乳幼児期	医学書院
カラー写真で学ぶ	新生児の観察と看護技術		医歯薬出版
カラー写真で学ぶ	周産期の看護技		医歯薬出版
カラー写真で学ぶ	妊産褥婦のケア		医歯薬出版

【参考文献】

授業の中で適宜提示する。

【成績評価方法】

筆記試験 100%

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

助産師としての実務経験を踏まえ、事例などを提示し講義内容の理解が深まるように工夫している

【学生へのメッセージ】

分娩介助技術習得のために必要な知識です。これまで以上に予習・復習が重要になります。教科書や参考文献を活用した積極的な自己学習の積み重ねが必要です。各学習の機会を大切に、効果的な学習ができるように努力しましょう。